

- ・ 1や2に✓ 『一方的な伝え方』  
一方的な情報伝達になっていると、相手には伝わっていないこともあります。また、一人で話し続けてしまうと、相手の反応が確認できません。
- ・ 3や4に✓… 『要領を得ない伝え方』  
要領を得ないとは、要点がはっきりしないことをいいます。情報をすべて説明しようとしたり、余計な話に時間を費やしてしまうと、何を一番伝えたいのかが、はっきりしません。
- ・ 5や6に✓ 『正確に伝わらない伝え方』  
「あれ」「これ」「それ」が多くなると、何を指し示しているのかが具体的に伝わらず、相手を混乱させてしまいます。「多めに」「ちょっと」は、どの程度の量を指しているのか、聞く人によって解釈が異なるあいまいな表現です。
- ・ 7や8に✓ 『言葉足らずな伝え方』  
言葉足らずとは、言葉が足りなくて、説明が不十分になることをいいます。「このぐらいのことはわかっているはず」と説明を端折った（省いた）結果、相手には伝わらなくなることもあります。
- ・ 9に✓ 『押し付けや決めつけに聞こえる伝え方』  
「ふつうは、そうする」「誰でもそう思う」など、根拠のない一般化は、一方的な押し付けや決めつけに聞こえてしまいます。
- ・ 10に✓ 『自分本位の伝え方』  
「なんでわからないのだろう」と思うのは、基準を相手にではなく自分に置いているからかも知れません。相手を基準にして、どのように伝えればわかりやすいかを意識しましょう。
- ・ 1つも✓がつかなかった人は…  
わかりやすく伝えることができる人です。ただし、自覚していない癖があるかもしれません。周囲の人と確認し合ってみるとよいでしょう。

- ・ この10の項目は、一般に「言いたいことが相手に伝わっていない」ときの伝え方です。
- ・ 当てはまる項目が多い場合、自分ではちゃんと伝えているつもりでも、相手には伝わっていないかもしれません。
- ・ 情報を共有するためには、自分が上手く「伝えた」かどうかより、相手に正しく「伝わった」かどうか、が重要といえるでしょう。